



研究キーワード

英語教育, コミュニケーション不安, 音響分析

中村 弘子

准教授

NAKAMURA, Hiroko

所属…人間形成教育センター

URL www.kankyo-u.ac.jp/~h-nakamu/

E-Mail h-nakamu@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目 基礎英語能力養成A・B, 応用英語能力養成A・B

研究者略歴

1985 (昭和60) 年 3月	神戸市外国語大学外国語学部英米学科卒業
1988 (昭和63) 年 3月	神戸市外国語大学大学院外国語学専攻修士課程英語学専攻修了
1988 (昭和63) 年 8月	米国イリノイ州立南イリノイ大学大学院修士課程言語障害学専攻入学
1989 (平成 元) 年 6月	国際ロータリー財団の奨学金給付期間終了後帰国
1990 (平成 2) 年 4月	パルモア学院専門学校専任教員
1991 (平成 3) 年 4月	大阪外国語大学外国語学部非常勤講師
2000 (平成11) 年 4月	宇都宮大学国際学部非常勤講師
2002 (平成14) 年 4月	筑波大学外国語センター非常勤講師
2003 (平成15) 年 9月	米国コネチカット州立コネチカット大学コミュニケーション・サイエンス研究科修士課程入学
2004 (平成16) 年 6月	米国コネチカット州立コネチカット大学コミュニケーション・サイエンス研究科修士課程修了
2009 (平成21) 年 9月	鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授

Research

■取得学位 文学修士 (神戸市外国語大学), Master of Arts (コネチカット大学)

■専門分野 英語教育, 応用言語学, 言語障害

■現在の研究テーマ
・日本人のコミュニケーション不安と外国語学習不安
・日本人のコミュニケーション不安に関する音響学的分析
・言語リズムの習得と母語の干渉について

■受賞歴 1988年 国際ロータリー財団大学院留学奨学生

■所属学会 大学英語教育学会, 外国語教育メディア学会, 日本音声学会, ことばの科学会

■資格 実用英語技能検定1級, TOEIC®スコア950点, 高等学校教諭専修免許状 (英語)

Data

研究等活動

- 【著書】
 ・「大学・高専・短大生のための英文法再入門」(分担執筆), 2019, 開拓社
 ・「文法の獲得」(分担執筆), 2007, 『ことばの認知と仕組み—ことばの科学の最前線』三省堂
 ・「一語文期における母国語の影響に関する一考察—bye-bye vocalizationの日米比較」(分担執筆), 『ことばの心理と学習』1998, 金星堂
- 【論文】
 ・"Effects of L1 and L2 communication apprehension on speaking skills of Japanese university students" (共著), 2023, *English Language Teaching*, 16(5), 1-9.
 ・「L1およびL2における情意要因が英語朗読時の心拍数や韻律的特徴に与える影響」(共著), 2023, 『ことばの科学研究』第24号, 55-76.
 ・「性格的特性および情意要因が日本人大学生のスピーキング・スキルに及ぼす影響」, 2022, 『ことばの科学研究』第23号, 23-41.
 ・"An acoustic study of communication apprehension during English oral presentations by Ja+B57anese university students" (共著), 2020, *English Language Teaching*, 13 (8), 178-184.
 ・「文法基礎知識と英文読解力の向上」, 2018, 『英語学論説資料』第50号 論説資料保存会
 ・「母語でのコミュニケーション不安が英語学習に及ぼす影響について」, 2016, 『ことばの科学研究』第16号
 ・"A comparative study of vocal fundamental frequency in the speech of Japanese and American hearing-impaired children" (共著), 2007, *Logopedics, Phoniatrics, Vocology*, 32, 17-22.
 ・"Effect of ambient language in the period of first words: bye-bye vocalizations of Japanese and American children" (共著), 2000, *Asia Pacific Journal of Speech, Language, and Hearing*, 5(1), 35-43.
- 【報告書】
 ・「コミュニケーション不安と英語教育」, 2012, 『鳥取環境大学紀要』第9号・第10号合併号, 127-129.
 ・「文法基礎知識と英文読解力の向上」, 2016, 『公立鳥取環境大学紀要』第14号, 89-93.
- 【翻訳】
 ・「人間の動機づけと感情における認知」(分担執筆), 2002, 『感情の社会心理学』金子書房
- 【辞典】
 ・「スピーキングのモデル」「サーキットモデル」「ロゴジェンモデル」「サーチモデル」他, 2003, 『応用言語学辞典』, 研究社
- 【国際会議】
 ・"An acoustic study on the effects of personality traits and affective factors on speaking skills of Japanese university students",
 ・The 61st JACET Online International Convention,
 ・"The effect of affective factors on L2 proficiency", 2021, PronSIG's Online Conference for International Association of Teachers of English as a Foreign Language, London, England
 ・"FO Analysis for the Oral Presentation in English by Japanese University Students", 2017, Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing, International University of Health and Welfare, Narita, Japan
 ・"Communication Apprehension and L2 Learning Anxiety in Japanese, Korean, and Taiwanese University Students" (共著), 2013, Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing, Chung Shan Medical University, Taichung City, Taiwan
 ・"L1 Communication Apprehension among Asian University Students", 2011, Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing, University of Canterbury, Christchurch, New Zealand
- 社会貢献活動
 ・全国語学教育学会 (JALT) 鳥取支部役員 (2022年12月~)
 ・高円宮杯英語弁論大会鳥取予選審査委員長 (2021年10月)
 ・放送大学鳥取学習センター面接授業担当 (2019年11月~12月)
 ・「授業に役立つ英語音声学」, 2014年~2020年, 8月, 教員免許更新講習
 ・「TOEICセミナー」, 2012年10月~11月, 2014年9月, 2016年, 8月~9月, 2019年, 9月, 2021年, 2月~3月, 公立鳥取環境大学公開講座
 ・第30回兵庫県高校生英語スピーチコンテスト但馬支部予選審査委員長, 2015年10月
 ・「東アジアの英語教育とコミュニケーション不安について」, 2015年7月, 鳥取大学グローバル化社会における多文化共生のための協働力養成プログラム
 ・「国際奉仕月間フォーラム」, 2014年2月, 国際ロータリー第2660地区大阪城南ロータリークラブ
 ・「東アジアの英語教育とコミュニケーション不安」, 2012年5月, 鳥取市民大学国際理解講座
 ・公益信託とりぎん青い鳥基金運営委員 (2014年9月~2020年3月)

日本人のコミュニケーション不安とプロソディ指導の効果



人間形成教育センター
准教授

中村 弘子

NAKAMURA, Hiroko

SDGs 関連項目



● 研究内容

英語教育の現場ではスピーキング力、特に英語でやり取りする力の向上が求められている。英語の授業の多くはコミュニケーションの場となっているが、日本人は他のアジア人よりもコミュニケーション不安が高く、シャイネスのレベルが高いことが報告されている。英語学習者のスピーキング力向上を阻害する情意要因の一つであるコミュニケーション不安を、音響分析という客観的な手法で分析し、その研究結果をプロソディ指導に生かすことを目的に実証研究を進めている。

これまでの研究結果から、コミュニケーション不安の高い学生は英語で発表する際に、話し方が単調で、リズムやイントネーション等のプロソディの面で習熟度が低いことが見受けられるため、レシテーションやドラマ形式のプレゼンテーションの機会を増やし、話す速度も含むプロソディ指導の効果を実証することに取り組んでいる。発話の明瞭性を高めるのは個々の発音よりも、むしろプロソディであるという先行研究も踏まえ、語アクセントや文アクセントに基づく英語のリズムを習得することが、発話の理解度を増し、不安の低減につながることを示すことによって、プロソディ指導の効果を検証する。

● 想定パートナー

各自治体の教育委員会

● 応用分野

小、中、高の英語教員の研修

● 取組実績

【企業、行政等との連携実績】

兵庫県高校生英語スピーチコンテスト但馬地区予選審査委員長および講演

ひょうご学力向上サポート事業 英語合同授業研究授業指導助言

高円宮杯英語弁論大会鳥取予選副審査委員長

● その他

【関連論文等】

- 1.Nakamura, H. & Begole, B.(2023). Effects of L1 and L2 Communication Apprehension on Speaking Skills of Japanese University Students. *English Language Teaching*, 16(5), 1-9.
- 2.中村 弘子(2022)。「性格的特性および情意要因が日本人大学生のスピーキング・スキルに及ぼす影響」『ことばの科学研究』第23号, 23-41.
- 3.Nakamura, H., Nomura, K. & Saeki, N.(2020). An acoustic study of communication apprehension during English oral presentations by Japanese university students. *English Language Teaching*, 13(8), 178-184.
- 4.Nakamura, H., Nomura, K. & Yamamoto, T.(2017). F0 analysis for the oral presentation in English by Japanese university students. *Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing*, Narita, Japan
- 5.中村 弘子(2016)。「母語でのコミュニケーション不安が英語学習に及ぼす影響について」、『ことばの科学研究』第16号, 85-94.
- 6.中村 弘子(2016)。「東アジアの英語教育とコミュニケーション不安について」鳥取大学グローバル化社会における多文化共生のための協働力育成プログラム
- 7.Nakamura, H. Kuo, F., Wu, K., Lin, S., Lee, D., Ka, H., & Lin, E.(2013). Communication apprehension and L2 learning anxiety in Japanese, Korean and Taiwanese university students. *9th Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing*. Taiwan